四国西予ジオマップ～大野ヶ原～

四国西予ジオパーク
SHIKOKU SEIYO GEOPARK

番外　四国西予ジオパークの特徴

四国西予ジオパークの特徴として「３つの多様性」が挙げられます。

①地質の多様性

西予市は古生代から新生代に至る多様な地質が存在します。また、アンモナイトや三葉虫、フズリナなど多様な化石も産出しており、ジュラ紀の化石が近くで見られるジオポイントも存在します。

②地形と生態系の多様性

西予市には海ではリアス式海岸、里には盆地、山には段丘やカルストなど、多様な地形が存在します。そこには標高、地形に応じた生態系が存在します。

③人の暮らしと多様性

西予市には多様な大地からさまざまな「ジオの恵み」が生み出され、春夏秋冬を通じて、各地域ではお祭りが行われています。現在もその文化が後世に保存・伝承されています。

1　源氏ヶ駄場

日本三大カルストのうち最も標高が高いのがここ四国カルスト。その中でも西端に位置するのがこの源氏ヶ駄場です。

標高１４０２mの最高点からは四国山地の山並みが一望できる。カルストの草原には石灰岩が侵食されてできたドリーネという凹地が見られる。

地名の由来は、源平の戦いに敗れた平家の残党が、白い石灰岩を白馬に見誤って退去したという伝説が残っている場所です。

2　ブナの原生林

ブナは漢字で書くと”橅”で木では無いと書くため木材としては適しません。

その代わりに水を非常に蓄えることができ、草のない土のおよそ３倍だと言われています。

かつて、ブナ林を伐採する計画が立ちましたが、ここから生活用水を引いている大野ヶ原の人々にとっては死活問題になるため、署名運動を行い中止に持ち込んだ歴史もある。

大野ヶ原の人々は、カルスト台地とそうでない大地の上で見事に共生を計りながら、生活をしています。

3　碁石ヶ森北側の枕状溶岩

カルスト台地の下の地層には、海底火山が噴火したマグマが急速に固まった玄武岩が見られる。

枕を重ねたような形をしているので枕状溶岩と呼ばれ、ここは昔、海の中でした。

四国カルストは約３億年前のものだと発見された化石から分かっているので、ここのジオポイントの岩石はもう少し古いものだと推測できます。

問い合わせ先 四国西予ジオパーク推進協議会
（事務局：西予市商工観光課ジオパーク推進室）
住所：愛媛県西予市宇和町卯之町3丁目434-1
TEL：0894-62-6408　FAX：0894-62-6542